

I 調査結果の概要

1 米

(1) 要 旨

平成23年産水陸稲の収穫量は、水稻が839万7,000 t、陸稲が5,220 t、水陸稲合計で840万2,000 tで、前年産に比べ8万1,000 t（1%）減少した。これは水稻の10a当たり収量が前年産を11kg（2%）上回ったものの、作付面積が5万1,000ha（3%）減少したためである。

水稻の作柄は、全国平均で作況指数101、10 a 当たり収量は533kgとなった。これは、5月下旬から6月中旬にかけての日照不足等の影響があったものの、7月以降、気温・日照時間共に回復したことから、全もみ数はおおむね平年並みとなり、その後登熟もおおむね順調に推移したためである。

陸稲の作柄は、主産地の茨城県及び栃木県において、出穂後の少雨により干害が発生したこと等から、全国の10 a 当たり収量は220 kg、10 a 当たり平均収量対比は88%となった。

平成23年産水稻の被害量は63万100 t、被害率は7.6%で、平年に比べて1.6ポイント下回り、前年産に比べて2.0ポイント下回った。

（表1-1、図1-1）

図1-1 水稻の作付面積及び収穫量の推移（全国）

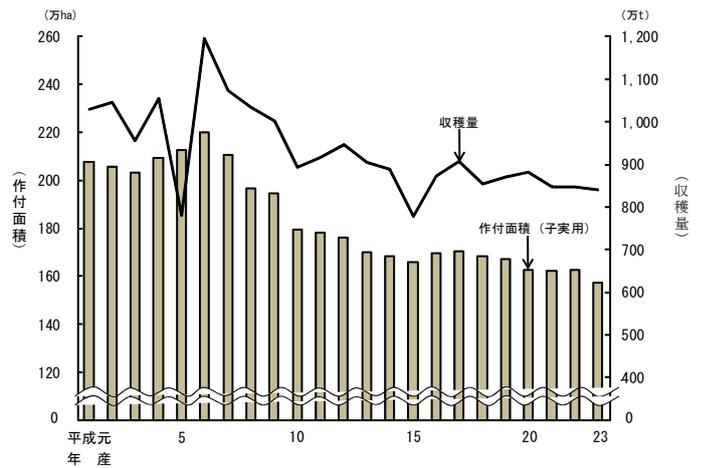


表1-1 平成23年産水陸稲の作付面積、10 a 当たり収量、収穫量及び被害量

全 国 農 業 地 域	作付面積 (子実用) 千ha	10 a 当 たり 取 量 kg	取 穫 量 (子実用) 千t	作 況 指 数 (対平年比)	前 年 産 と の 比 較						参 考	
					作 付 面 積		10 a 当 たり 取 量		取 穫 量		主 食 用 作 付 面 積 千ha	取 穫 量 (主食用) 千t
					対 差	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比		
水 陸 稲 計	1,576.0	—	8,402.0	—	△ 52.0	97	nc	△ 81.0	99	…	…	
水 稲	1,574.0	533	8,397.0	101	△ 51.0	97	102	△ 81.0	99	1,526.0	8,133.0	
北 海 道	112.9	562	634.5	105	△ 1.7	99	107	32.8	105	109.1	613.1	
東 北	389.0	565	2,199.0	101	△ 30.3	93	101	△ 140.0	94	370.9	2,096.0	
北 陸	208.8	537	1,122.0	101	△ 2.1	99	102	13.0	101	195.5	1,050.0	
関 東・東 山	295.6	533	1,577.0	100	△ 3.9	99	103	19.0	101	289.7	1,546.0	
東 海	102.4	502	514.4	100	△ 2.0	98	101	△ 2.6	99	101.5	510.4	
近 畿	109.3	504	551.2	99	△ 1.2	99	101	△ 0.8	100	107.7	542.8	
中 国	115.1	522	600.4	101	△ 2.4	98	104	11.6	102	113.2	590.5	
四 国	56.2	478	268.6	99	△ 1.5	97	99	△ 8.7	97	55.9	267.1	
九 州	183.5	505	927.0	100	△ 6.5	97	103	△ 6.0	99	181.3	915.4	
沖 縄	0.9	276	2.5	89	0.0	101	94	△ 0.1	95	0.9	2.5	
陸 稲	2.4	220	5.2	88	△ 0.5	82	116	△ 0.2	96	…	…	

全 国 農 業 地 域	被 害					
	被害面積 千ha	被 害 実 面 積 千ha	被 害 量 千t	被 害 率		
				本 年	対 平 年 差	対 前 年 差
水 陸 稲 計	…	…	…	…	…	…
水 稲	3,947.0	1,432.0	630.1	7.6	△ 1.6	△ 2.0
北 海 道	255.9	111.9	27.0	4.5	△ 6.0	△ 5.3
東 北	1,252.0	377.2	167.5	7.7	△ 2.8	△ 1.4
北 陸	317.6	165.9	45.9	4.1	△ 0.9	△ 0.9
関 東・東 山	620.2	247.2	134.3	8.5	0.1	△ 2.6
東 海	225.0	93.0	37.3	7.2	0.6	△ 1.1
近 畿	252.9	99.4	41.3	7.4	0.1	△ 0.8
中 国	232.6	101.8	39.8	6.7	△ 0.7	△ 3.8
四 国	185.1	54.8	32.1	11.8	0.8	1.1
九 州	603.9	180.2	104.9	11.4	△ 0.4	△ 3.0
沖 縄	1.9	0.7	0.5	16.6	8.9	5.2
陸 稲	…	…	…	…	…	…

注：1 陸稲の作況指数欄は、原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値（10a当たり平均収量）との対比である。
 2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。
 3 被害面積は被害種類別の面積を合計したもので、2種類以上の被害を受けた場合は重複して計上してある（以下の各表において同じ。）
 4 被害実面積は上記3のうち、重複部分を除いた面積である（以下の各表において同じ。）
 5 被害率は（被害量÷平年収量）×100である（以下の各表において同じ。）
 6 被害率の対平年差は、昭和54年以降の異常値除外平均被害率との差である（以下の各表において同じ。）

(2) 解説

ア 作付面積（子実用）

(ア) 水 稲

平成23年産水稲の作付面積（子実用）は157万4,000haで、前年産に比べ5万1,000ha（3%）減少した。

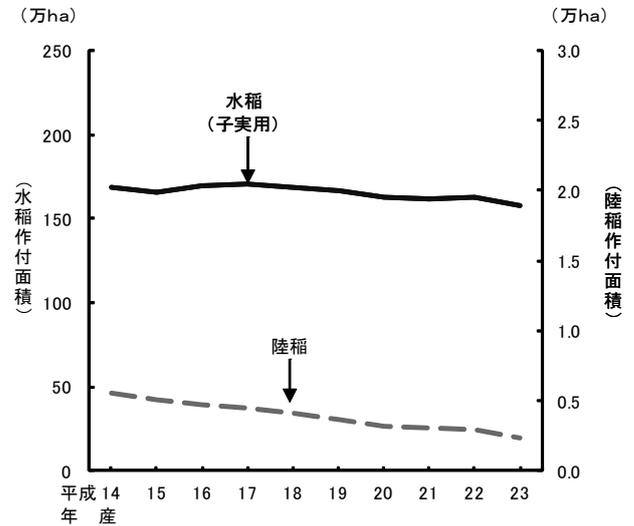
（表1-1、図1-2）

(イ) 陸 稲

平成23年産陸稲の作付面積は2,370haで、前年産に比べて520ha（18%）減少した。

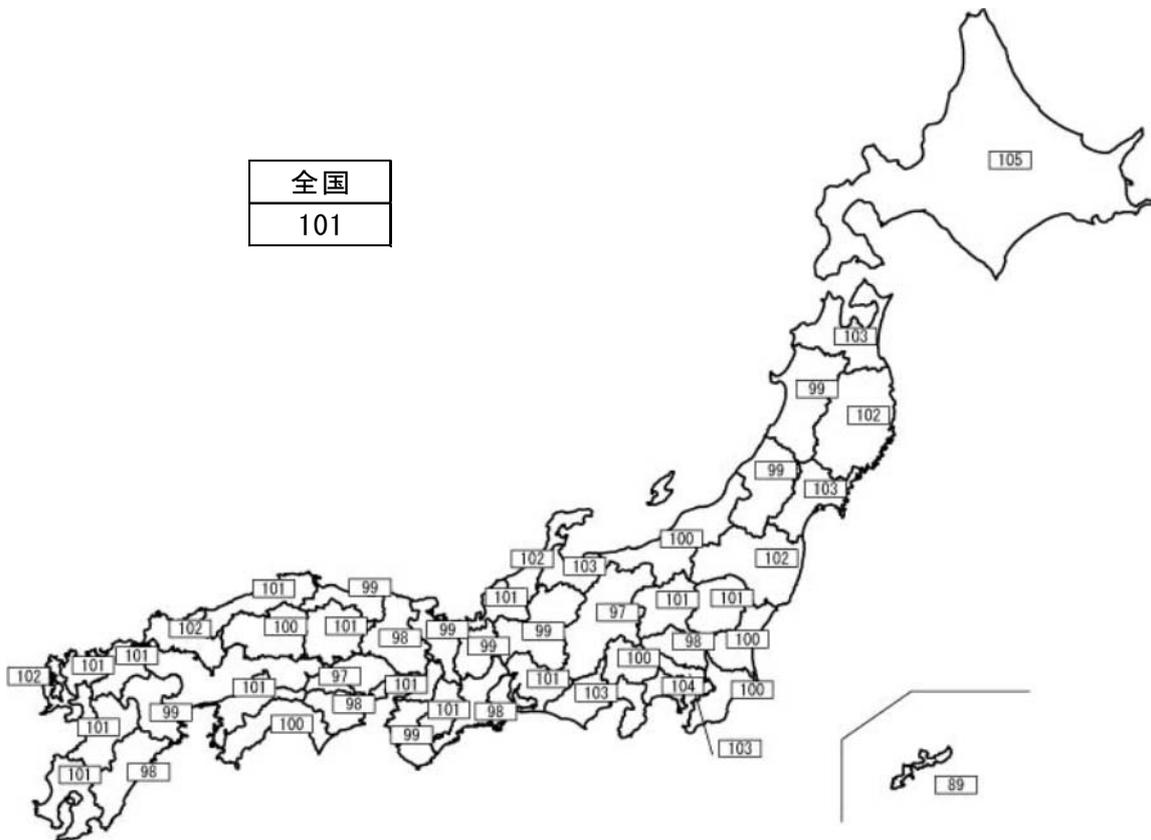
（表1-1、図1-2）

図1-2 水陸稲の作付面積の推移(全国)



イ 作柄概況

図1-3 平成23年産水稲の都道府県別作況指数



注： 西南暖地の早期栽培等の地域（徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県）は早期栽培（第一期稲）、普通期栽培（第二期稲）を合算したものである。

(ア) 水 稲

a 北海道

田植期は平年に比べ3日遅くなったものの、出穂期は7月の気温・日照時間がおおむね平年を上回ったことから、平年に比べ1日早くなった。

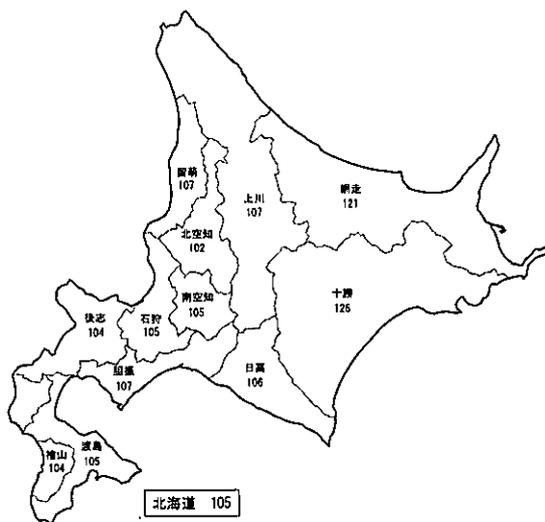
穂数は、6月の日照不足等の影響により分けつが抑制されたことから、平年に比べ少なくなった。

1穂当たりもみ数は、7月の好天等により多くなったものの、全もみ数は少なくなった。

登熟は、7月以降、気温・日照時間がおおむね平年を上回ったことから、稔実が平年を上回ったことに加え、粒の肥大・充実も順調に推移したため、良となった。

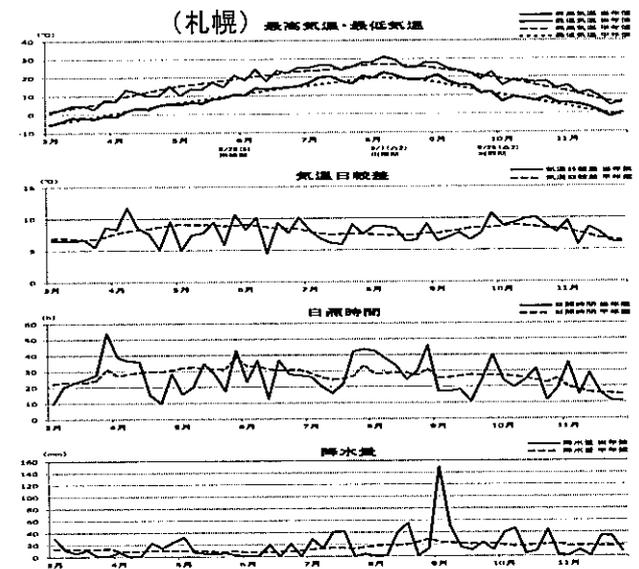
このため、主産地である上川、北空知及び南空知の10a当たり収量はそれぞれ595kg（作況指数107）、570kg（同102）、552kg（同105）となり、北海道全体の10a当たり収量は562kg（同105）となった。（図1-4、1-5）

図1-4 平成23年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（北海道）



注：□内の数値は道平均の作況指数である。

図1-5 平成23年産稲作期間の半月別気象経過



資料：気象庁「アメダスデータ」の統計部における組み替え結果による（以下の各図において同じ。）。

注：耕種期日はそれぞれ最盛期であり、()内の数値は平年と比較し、その遅速を日数で表しているものであり、△は早いことを示す（以下の各図において同じ。）。

b 東北

田植期は融雪の遅れや降雨の影響に加え、東日本大震災による作業の遅れ等により、各県で平年に比べ2日から6日遅くなったものの、出穂期は6月中旬以降気温・日照時間がおおむね平年を上回ったことから、各県で平年並みとなった。

穂数は、宮城県で平年並みとなった他は、5月下旬から6月上旬にかけての低温・日照不足の影響により分けつが抑制されたことから、各県で少ないないしやや少ないとなった。

1穂当たりもみ数は、7月上旬から中旬にかけての気温・日照時間がおおむね平年を上回ったこと等から、各県で多くないしやや多くなり、全もみ数は宮城県でやや多くなった他は、各県で平年並みないしやや少ないとなった。

登熟は、出穂期以降、気温がおおむね平年を上回り、日照時間もおおむね確保されたことから、青森県で良、岩手県及び福島県でやや良となった他は、各県で平年並みとなった。

このため、10a当たり収量は、青森県598kg（作況指数103）、岩手県546kg（同102）、宮城県547

kg (同103)、秋田県569kg (同99)、山形県588kg (同99)、福島県549kg (同102) となり、東北平均で565kg (同101) となった。(図1-6、1-7)

図1-6 平成23年産水稻の作柄表示地帯別作況指数(東北)

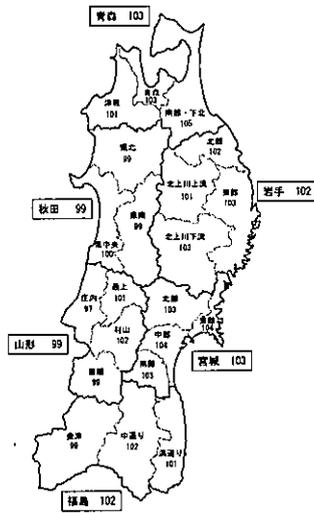
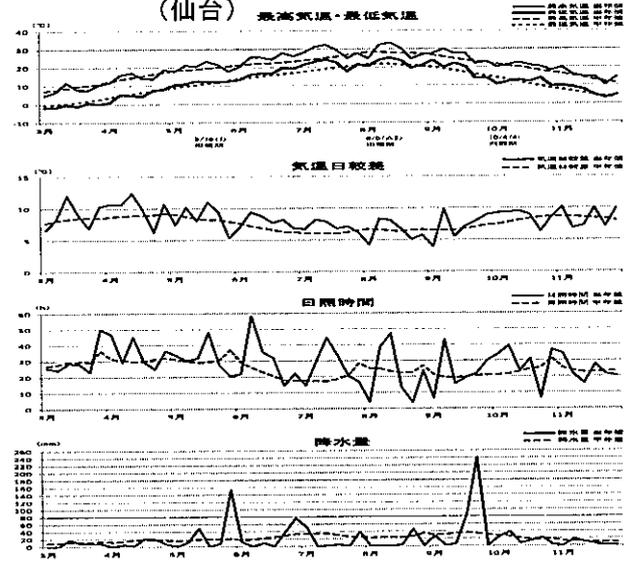


図1-7 平成23年産稲作期間の半旬別気象経過(仙台)



c 北陸

田植期は福井県で遅植えの普及により平年に比べ6日遅くなった他は、各県で平年並みとなり、出穂期は6月下旬以降気温・日照時間がおおむね平年を上回ったことから、福井県で平年並みとなった他、各県で平年に比べ3日早くなった。

穂数は、5月下旬の低温・日照不足の影響により分けつが抑制されたことから、各県でやや少ないとなった。

1穂当たりもみ数は、6月下旬から7月中旬にかけての気温・日照時間がおおむね平年を上回ったこと等から、各県で多いないしやや多いとなり、全もみ数は各県でやや多いないし平年並みとなった。

登熟は、8月下旬の日照不足や台風等の影響により新潟県でやや不良となった他は、各県で平年並みとなった。

このため、10a 当たり収量は、新潟県538kg (作況指数100)、富山県551kg (同103)、石川県528kg (同102)、福井県523kg (同101) となり、北陸平均で537kg (同101) となった。

(図1-8、1-9)

図1-8 平成23年産水稻の作柄表示地帯別作況指数(北陸)

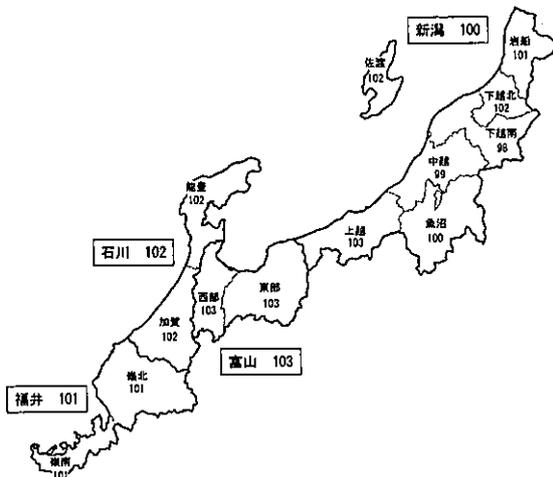
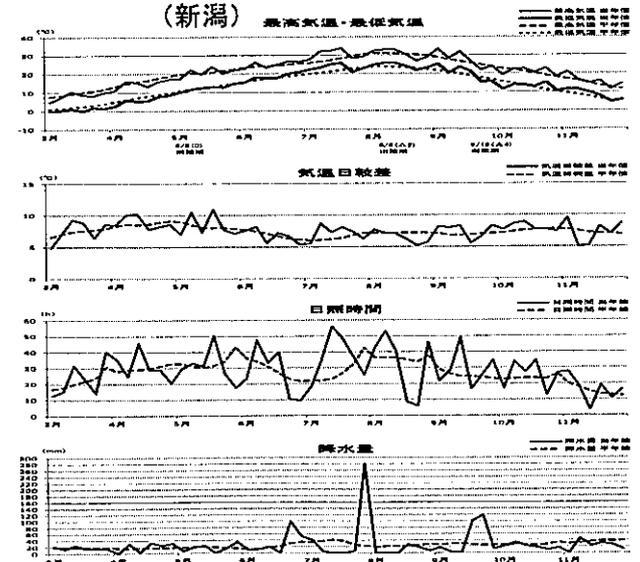


図1-9 平成23年産稲作期間の半旬別気象経過(新潟)

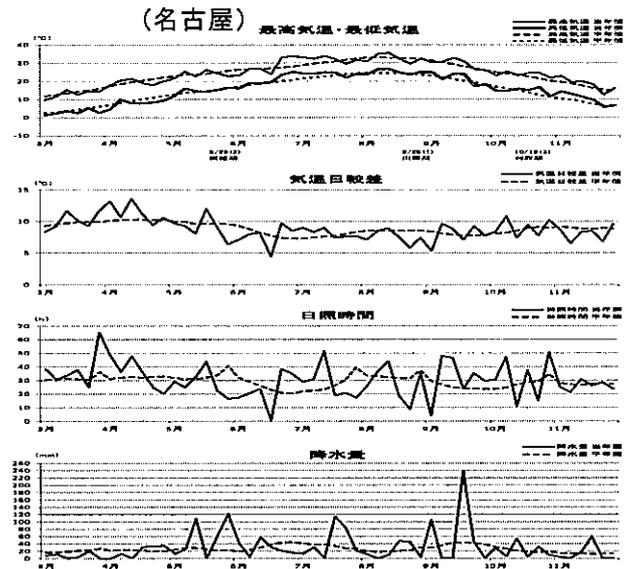
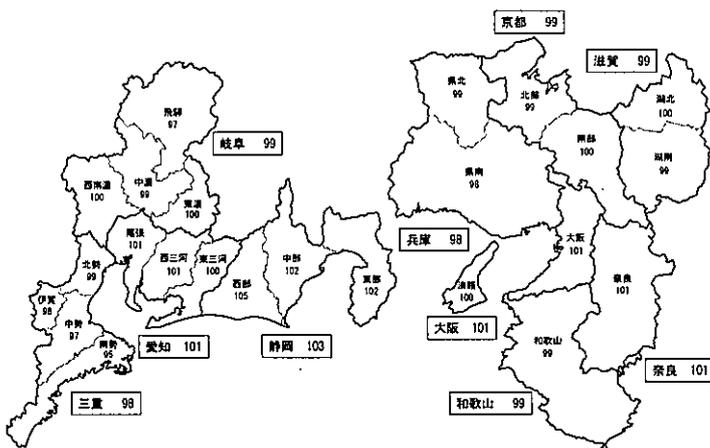


並まないしやや多いとなった。

登熟は、台風第6号等の影響により三重県でやや不良、台風第12号等の影響により和歌山県でやや不良となった他は、各県で平年並みとなった。

このため、10a当たり収量は、岐阜県485kg（作況指数99）、静岡県539kg（同103）、愛知県510kg（同101）、三重県488kg（同98）、滋賀県513kg（同99）、京都府508kg（同99）、大阪府502kg（同101）、兵庫県494kg（同98）、奈良県519kg（同101）、和歌山県492kg（同99）となり、東海平均で502kg（同100）、近畿平均で504kg（同99）となった。（図1-12、1-13）

図1-12 平成23年産水稻の作柄表示地帯別作況 図1-13 平成23年産稲作期間の半旬別気象経過
指数（東海及び近畿）



f 中国及び四国

田植期は鳥取県及び岡山県で平年に比べ3日遅くなった他は、各県で平年並みとなり、出穂期は山口県で平年に比べ3日早くなった他は、各県で平年並みとなった。

穂数は、山口県及び徳島県（普通栽培）で平年並みとなった他は、5月下旬から6月中旬にかけての日照不足等の影響により分けつが抑制されたことから、各県でやや少ないないし少ないとなった。

1穂当たりもみ数は、6月下旬から8月上旬にかけての気温・日照時間がおおむね平年を上回ったこと等から、各県で多くないしやや多いとなり、全もみ数は山口県で多い、徳島県（早期栽培）及び香川県で平年並み、鳥取県及び高知県（早期栽培）でやや少ないとなった他は、各県でやや多いとなった。

登熟は、鳥取県及び高知県（早期栽培）で平年並み、出穂前後の好天により高知県（普通栽培）でやや良となった他は、8月中旬から9月中旬にかけての日照不足及び9月下旬から10月上旬にかけての低温等により、徳島県（普通栽培）で不良、各県でやや不良となった。

このため、10a当たり収量は、鳥取県509kg（作況指数99）、島根県514kg（同101）、岡山県533kg（同101）、広島県523kg（同100）、山口県515kg（同102）、徳島県463kg（同98）、香川県483kg（同97）、愛媛県502kg（同101）、高知県459kg（同100）となり、中国平均で522kg（同101）、四国平均で478kg（同99）となった。（図1-14、1-15）

図 1-16 平成23年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（九州及び沖縄）

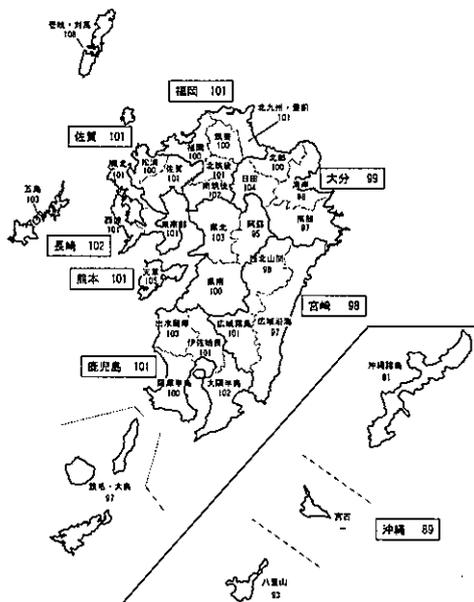
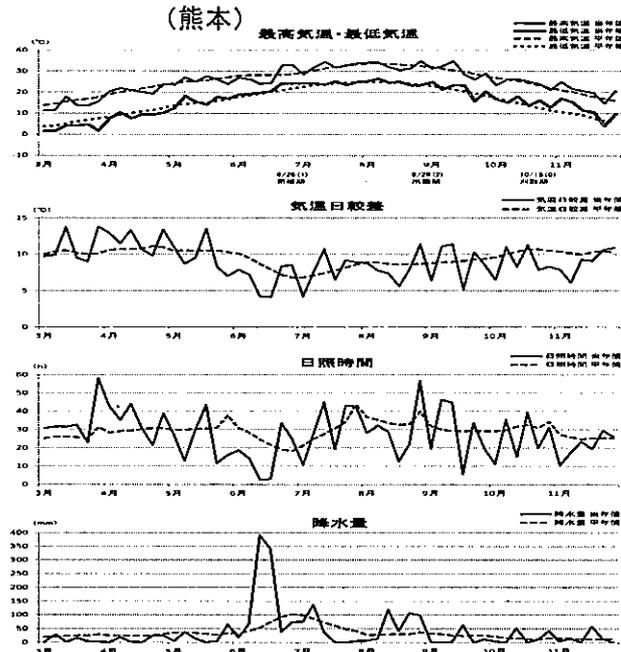


図 1-17 平成23年産稲作期間の半月別気象経過（熊本）



(イ) 陸 稲（主産地域）

主産地の茨城県及び栃木県において、出穂後の少雨により干害が発生したこと等から、10 a 当たり平均収量対比は茨城県が88%、栃木県が84%であった。

(表 1-2)

表 1-2 平成23年産陸稲の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較					(参 考) 10 a 当たり 平均収量対比	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量		収 穫 量		
				対 差	対 比	対 比	対 比	対 差		対 比
全 国	千ha	kg	千 t	千ha	%	%	千 t	%	%	
	2.4	220	5.2	△ 0.5	82	116	△ 0.2	96	88	
う ち 茨 城	1.6	228	3.5	△ 0.4	79	119	△ 0.2	94	88	
栃 木	0.6	215	1.3	△ 0.1	92	108	△ 0.0	98	84	

注：「(参考) 10 a 当たり平均収量対比」とは、10 a 当たり平均収量（原則として直近 7 か年のうち、最高及び最低を除いた 5 か年の平均値）に対する当年産の 10 a 当たり収量の比率である。

ウ 水稲の被害の概要

全国の被害量は63万100 t、被害率は7.6%で、平年に比べて1.6ポイント下回った。これは、梅雨明け以降、温度・日照時間共に回復傾向となり、その後も順調に推移したためである。

被害種類別にみると、気象被害の被害率は5.1%で、平年を0.7ポイント下回った。このうち、風水害の被害率は1.7%で平年を0.1ポイント下回り、冷害の被害率は0.3%で平年を1.8ポイント下回ったが、日照不足の被害率が2.2%で前年を上回った。

病害の被害率は1.6%で、平年を1.0ポイント下回った。このうち、いもち病の被害率は0.9%で平年を0.6ポイント下回り、紋枯病の被害率は0.5%で平年を0.1ポイント下回った。

虫害の被害率は0.5%で、平年を0.2ポイント下回った。このうち、ニカメイチュウの被害率は0.1%で平年並み、ウンカの被害率は0.1%で平年を0.2ポイント下回った。(表1-3、1-4、図1-18)

表 1-3 平成23年産水稲の被害

被害種類	被害面積	被害量	被害率		
			本年	対平年差	対前年差
	ha	t	%	ポイント	ポイント
総数	3,947,000	630,100	7.6	△ 1.6	△ 2.0
気象被害	2,552,000	426,400	5.1	△ 0.7	△ 1.9
風水害	586,200	144,400	1.7	△ 0.1	0.8
干害	5,070	1,510	0.0	△ 0.1	△ 0.1
冷害	301,200	24,500	0.3	△ 1.8	0.3
日照不足	1,036,000	183,200	2.2	…	0.3
高温障害	126,700	13,100	0.2	…	△ 1.8
その他	496,700	59,700	0.7	…	△ 1.4
病害	731,300	135,200	1.6	△ 1.0	0.0
いもち病	276,800	73,200	0.9	△ 0.6	0.1
紋枯病	248,900	39,200	0.5	△ 0.1	0.0
その他	205,600	22,800	0.3	△ 0.1	0.0
虫害	538,900	44,600	0.5	△ 0.2	△ 0.2
ニカメイチュウ	64,600	6,780	0.1	0.0	0.0
ウンカ	60,600	7,480	0.1	△ 0.2	△ 0.1
カメムシ	92,700	9,150	0.1	…	0.0
その他	321,000	21,200	0.3	…	△ 0.1

注：1 表1-1の脚注参照。

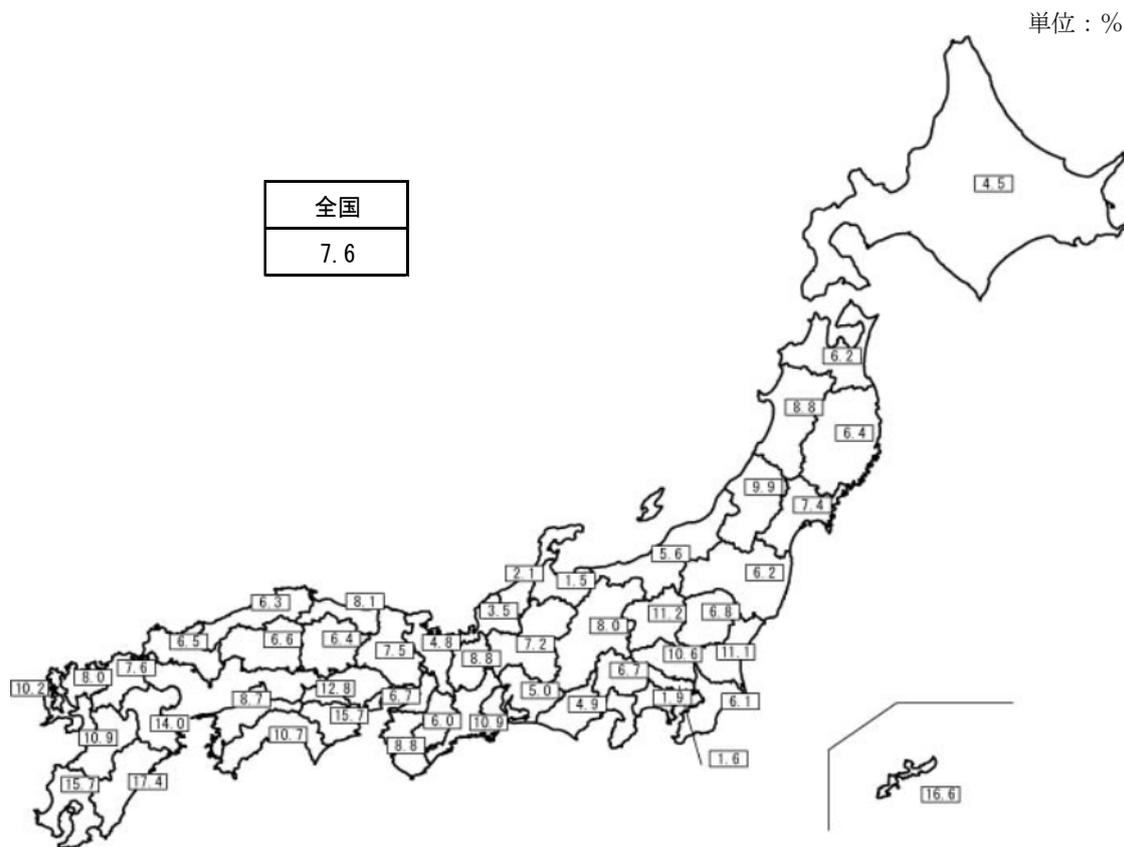
2 気象被害のうち「日照不足」、「高温障害」及び「その他」、虫害のうち「カメムシ」及び「その他」については、平成14年産から気象被害及び虫害について表章区分の見直しを行ったことから、平年差の比較をしていない。

表 1-4 平成23年産水稻の被害種類別被害率及び対平年差（全国農業地域別）

全国農業地域・区分		総数	気象被害				病害			虫害				
			風水害	冷害	日照不足	高温障害	いもち病	紋枯病		ニカメイチュウ	ウンカ	カメムシ		
全 国	被害率(%)	7.6	5.1	1.7	0.3	2.2	0.2	1.6	0.9	0.5	0.5	0.1	0.1	0.1
	対平年差	△ 1.6	△ 0.7	△ 0.1	△ 1.8	…	…	△ 1.0	△ 0.6	△ 0.1	△ 0.2	0.0	△ 0.2	…
北 海 道	被害率(%)	4.5	4.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.4	0.2	-	0.1	0.0	0.0	0.0
	対平年差	△ 6.0	△ 5.3	△ 0.7	△ 7.6	…	…	△ 0.6	0.0	0.0	△ 0.1	0.0	△ 0.1	…
東 北	被害率(%)	7.7	6.4	0.7	1.0	2.9	0.2	1.0	0.7	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1
	対平年差	△ 2.8	△ 1.7	△ 0.5	△ 3.5	…	…	△ 1.1	△ 1.1	△ 0.1	0.0	0.0	0.0	…
北 陸	被害率(%)	4.1	3.2	2.9	-	0.3	-	0.5	0.1	0.3	0.3	0.1	0.0	0.0
	対平年差	△ 0.9	△ 0.4	1.2	△ 0.3	…	…	△ 0.5	△ 0.5	0.0	0.0	0.1	△ 0.1	…
関東・東山	被害率(%)	8.5	5.8	2.1	0.2	2.2	0.3	1.8	0.7	0.9	0.7	0.1	0.1	0.1
	対平年差	0.1	1.2	0.2	△ 0.9	…	…	△ 1.3	△ 0.9	△ 0.1	0.1	0.0	△ 0.1	…
東 海	被害率(%)	7.2	3.5	2.9	-	0.5	0.1	2.3	1.3	0.5	0.9	0.2	0.1	0.2
	対平年差	0.6	0.9	1.6	△ 0.2	…	…	△ 0.5	△ 0.4	△ 0.1	△ 0.1	0.0	△ 0.2	…
近 畿	被害率(%)	7.4	4.2	1.8	-	2.1	0.2	1.9	1.0	0.6	0.8	0.2	0.2	0.1
	対平年差	0.1	1.9	0.3	0.0	…	…	△ 1.5	△ 1.0	△ 0.2	△ 0.5	0.0	△ 0.5	…
中 国	被害率(%)	6.7	3.6	1.6	-	1.9	0.1	1.8	1.1	0.3	0.6	0.1	0.2	0.2
	対平年差	△ 0.7	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.1	…	…	△ 0.6	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.5	0.0	△ 0.4	…
四 国	被害率(%)	11.8	7.1	3.8	0.0	2.8	0.2	2.8	1.4	1.0	1.1	0.1	0.3	0.2
	対平年差	0.8	2.6	0.6	0.0	…	…	△ 1.7	△ 0.8	△ 0.5	△ 0.7	△ 0.2	△ 0.6	…
九 州	被害率(%)	11.4	5.7	2.0	-	3.6	0.1	4.0	2.3	0.8	1.0	-	0.2	0.2
	対平年差	△ 0.4	△ 0.4	△ 0.9	△ 0.3	…	…	0.2	0.6	△ 0.3	△ 0.7	0.0	△ 0.6	…
沖 縄	被害率(%)	16.6	16.0	6.9	-	4.4	-	0.0	0.0	-	0.2	-	-	0.0
	対平年差	8.9	9.9	2.2	-	…	…	△ 0.8	△ 0.7	0.0	△ 0.5	0.0	△ 0.2	…

注：表 1-1 及び 1-3 の脚注参照。

図 1-18 平成23年産水稻の都道府県別被害率（総数）



注： 西南暖地の早期栽培等の地域（徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県）は早期栽培（第一期稲）、普通期栽培（第二期稲）を合算したものである。